

- 問1 古墳時代中期（5世紀）の日本において、近畿地方に巨大な前方後円墳が相次いで作られた一方で、熊本県や埼玉県という離れた地域から同一の大王名が刻まれた鉄剣が発見されている理由として最も適切なものを、次の選択肢の中から1つ選びなさい。（2025年 宮崎県公立入試 類似）

1. 近畿地方を本拠地とするヤマト王権が地方の首長と結びつき、支配勢力を広範囲に拡大させたから

2. 九州地方の邪馬台国が全国の首長を従えて巨大な墳墓を各地に建造させたから

3. 地方の首長たちが独自に近畿地方の技術を模倣し、政治的影響力を強めたから

4. 中国の皇帝から与えられた鉄剣を全国の首長が共有して保持していたから
- 問2 4世紀から7世紀頃にかけて朝鮮半島や中国大陸から日本列島へ移住した人々は、それまでの土器とは異なる、黒っぽくて硬い「須恵器」の製作技術や、文字としての「漢字」などを伝えました。このような人々を何と呼びますか。（2026年 山形県公立入試 類似）

1. 渡来人

2. 弥生人

3. 縄文人

4. 防人
- 問3 5世紀に「倭の五王」が中国の南朝へ繰り返し使者を送り、朝貢を行った背景や目的についての説明として、最も適切なものを選択してください。（2024年 三重県公立入試 類似）

1. 白村江の戦いでの敗北を受け、唐や新羅による日本侵攻を防ぐために、中国との友好関係を急いで構築する必要があったため。

2. 冠位十二階や憲法十七条などの新しい制度を導入するため、先進的な政治体制を直接学ぶ官僚を派遣する必要があったため。

3. 日本独自の元号を定めるにあたり、中国の皇帝から許可を得ることで、東アジアにおける地位を確立しようとしたため。

4. 中国の皇帝から称号を授かることで、国内の豪族に対する統治の正当性を高め、朝鮮半島南部における軍事的な立場を有利にするため。
- 問4 5世紀後半の日本列島において、大和政権の支配力が関東地方から九州地方にまで広く及んでいたことを示す歴史的背景として、最も適切な説明を選びなさい。（2019年 長崎県公立入試 類似）

1. 白村江の戦いでの敗北を機に、関東から九州にかけて山城や防人が配置され、軍事的な中央集権化が進んだ。

2. 埼玉県の稲荷山古墳と熊本県の江田船山古墳から、同一の最高権力者である大王の名を刻んだ鉄剣・鉄刀が出土した。

3. 聖徳太子が十七条の憲法を制定し、地方の豪族に対して大王への忠誠を誓わせる制度が全国に普及した。

4. 邪馬台国の女王である卑弥呼が魏から贈られた親魏倭王の称号を、地方の有力豪族に分け与えて統治した。
- 問5 仏教が伝来し寺院が建立されるようになる以前の時代、各地の有力者が自らの権威を示すために築いた、土を高く盛り上げた巨大な墓を何といいますか。（2022年 岡山県公立入試 類似）

1. 貝塚

2. 都

3. 環濠集落

4. 古墳
- 問6 大阪府堺市に位置し、三重の堀に囲まれた巨大な鍵穴のような形状を持つ、日本最大級の面積を誇る古墳の名称として正しいものを選びなさい。（2018年 長崎県公立入試 類似）

1. 大仙（大仙陵）古墳

2. 稲荷山古墳

3. 高松塚古墳

4. 江田船山古墳
- 問7 ヤマト王権の王たちが「倭の五王」として中国の南朝へ繰り返し使節を送り、当時の国際社会において自らの地位を誇示しようとした主な背景と目的として、最も適切な説明はどれですか。（2024年 栃木県公立入試 類似）

1. 最澄などの僧を派遣し、仏教を日本へ正式に導入するための許可を得るため

2. 朝鮮半島における軍事的な指揮権を中国の皇帝に認めさせ、外交を有利に進めるため

3. 大陸から稲作の技術を導入し、国内の食料生産を安定させるための指導を仰ぐため

4. 坂上田村麻呂を派遣して東北地方を制圧するために、強力な武器の支援を求めるため
- 問8 4世紀から6世紀ごろにかけて、朝鮮半島や中国大陸から日本列島へ移り住み、当時の日本に欠けていた高度な技術や文化を伝えた人々を何と呼びますか。（2023年 新潟県公立入試 類似）

1. 渡来人

2. 防人

3. 御家人

4. 遣隋使
- 問9 4世紀末から5世紀の山口県の古墳から出土した銅鏡の記述など、瀬戸内海の航路の要所に位置する地域から王権に関連する品々が見つかることがあります。この事実から推測される、当時のヤマト王権の地方支配のあり方として正しいものはどれですか。（2024年 山口県公立入試 類似）

1. 遣隋使を派遣するための寄港地を確保するため、山口県周辺を王権の直轄地とした

2. 海上交通の要所に位置する豪族と連携し、物流や情報のルートを確保しようとした

3. 邪馬台国の女王卑弥呼が中国から受け取った鏡を、瀬戸内海の豪族に再分配した

4. 大陸から伝来した青銅器の製造技術を、農業振興のために全国の農民へ普及させた
- 問10 埼玉県の稲荷山古墳から「ワカタケル大王」の名が刻まれた鉄剣が出土し、また熊本県の江田船山古墳からも同じ大王の名が刻まれた大刀が出土しました。これらの史料から推測できる、5世紀後半の日本列島の状況として最も適切な説明を選びなさい。（2024年 大阪府公立入試 類似）

1. 稲作の技術が伝わったことで、日本列島各地で小国家の統一が始まった。

2. ヤマト政権の政治的な支配力が、関東地方から九州地方まで及んでいた。

3. 各地域の豪族が独自に強力な軍隊を持ち、ヤマト政権と激しく対立していた。

4. 仏教の教えが全国に広まり、各地の豪族が鉄剣を寺院に奉納していた。
- 問11 古墳時代に普及した「須恵器」の製作方法や特徴に関する説明として、最も適切なものはどれですか。（2018年 長崎県公立入試 類似）

1. 密閉された穴窯などを用いて高温で焼かれ、硬く灰色をしている。

2. 木版印刷の技術を応用して表面に色が塗られ、庶民の間で流行した。

3. 表面に複雑な縄の模様がつけられ、主に祭祀用の道具として用いられた。

4. 野焼きによって比較的低い温度で焼かれ、表面が赤褐色をしている。
- 問12 古墳時代の文化において、古墳の頂上や周囲を囲むように並べられた、円筒の形や人間、家などの形を模した土製の焼き物を何といいいますか。（2024年 三重県公立入試 類似）

1. 須恵器

2. 銅鐸

3. 埴輪

4. 土偶
- 問13 古墳時代、各地の有力者が巨大な墓を造りました。その中でも、上から見ると鍵穴のような独特の形（一方が四角形で、もう一方が円形）をした、日本独自の形式の古墳を何と呼びますか。（2021年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 方墳

2. 円墳

3. 前方後円墳

4. 装飾古墳
- 問14 縄文時代と古墳時代の出土品の違いについて説明した文として、最も適切なものを1つ選びなさい。（2026年 徳島県公立入試 類似）

1. 鉄剣や銅鏡は縄文時代から用いられ、土偶は古墳時代になって権力の象徴として副葬された。

2. 土偶も埴輪もどちらも古墳時代の副葬品であり、大仙古墳などの大型古墳から出土する。

3. 埴輪は縄文時代の集落跡から多く出土し、土偶は古墳時代の豪族の墓から出土する。

4. 埴輪は古墳時代に古墳の表面や周囲に並べられたが、土偶は縄文時代に祈りや魔よけのために作られた。

## 答え合わせ・解説

|     |                                                                       |                                                                                                                                                                                                          |
|-----|-----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問1  | 答え 1<br>近畿地方を本拠地とするヤマト王権が地方の首長と結びつき、支配勢力を広範囲に拡大させたから                  | 5世紀には近畿地方を中心に大王の権力を示す巨大な前方後円墳が築かれました。また、関東や九州の地方首長の墓から近畿の大王（ワカタケル大王）の名を刻んだ鉄剣が出土することから、近畿のヤマト王権が各地の首長を配下に組み込み、全国的な支配勢力を拡大させていったと考えられています。                                                                 |
| 問2  | 答え 1<br>渡来人                                                           | 4世紀から7世紀にかけて、大陸の戦乱を避けるなどの理由で日本列島に移り住んだ人々は、当時の日本にはなかった高度な技術や文化を伝えました。彼らが伝えた須恵器は、高温で焼くことができる穴窯（あながま）の技術を用いたもので、それまでの赤褐色の土器よりも硬い性質を持っていました。また、漢字の伝来は、その後の大和政権による記録や行政の仕組みを支える基盤となりました。                      |
| 問3  | 答え 4<br>中国の皇帝から称号を授かることで、国内の豪族に対する統治の正当性を高め、朝鮮半島南部における軍事的な立場を有利にするため。 | ヤマト王権の王たちは、中国の皇帝から「安東大將軍」などの高い称号を得ることで、日本国内における絶対的な権威を確立しようとししました。また、当時の朝鮮半島では高句麗や新羅、百済が対立しており、その中で軍事的な優位性を国際的に承認させる狙いもありました。                                                                            |
| 問4  | 答え 2<br>埼玉県の稲荷山古墳と熊本県の江田船山古墳から、同一の最高権力者である大王の名を刻んだ鉄剣・鉄刀が出土した。         | 埼玉県の稲荷山古墳で出土した鉄剣には「獲加多支鹵大王（ワカタケルオオキミ）」という文字が刻まれていました。同様の銘文を持つ鉄刀が熊本県の江田船山古墳からも見つかったことから、5世紀後半には近畿地方の大和政権が、関東から九州に至るまでの広い範囲を勢力下に置いていたことが実証されています。                                                          |
| 問5  | 答え 4<br>古墳                                                            | 古墳時代、各地の有力者（豪族）は土を高く盛り上げた巨大な「古墳」を築くことで、その勢力を誇示しました。しかし、飛鳥時代に仏教が伝来して寺院が建立されるようになると、有力者の権威を象徴する対象は古墳から寺院へと変化し、巨大な古墳は次第に造られなくなってきました。                                                                       |
| 問6  | 答え 1<br>大仙（大仙陵）古墳                                                     | 堺市にあるこの古墳は、仁徳天皇の墓とも伝えられている日本最大の前方後円墳です。三重の堀に囲まれたその巨大な規模は、当時の大王（おおきみ）が持っていた強大な権力を物語っています。                                                                                                                 |
| 問7  | 答え 2<br>朝鮮半島における軍事的な指揮権を中国の皇帝に認めさせ、外交を有利に進めるため                        | 5世紀の東アジアでは、朝鮮半島の高句麗、百済、新羅などが勢力を争っていました。ヤマト王権は、中国の皇帝から「安東大將軍」といった軍事的な指揮権を含む称号を授かることで、朝鮮半島南部における自国の影響力を国際的に正当化しようとししました。これは、当時の日本が朝鮮半島の鉄資源や先進技術を確保するために、外交的な優位性を必要としていたという背景に基づいています。                      |
| 問8  | 答え 1<br>渡来人                                                           | 朝鮮半島での戦乱を逃れるため、あるいは大和政権による招きに応じて日本列島にやってきた人々です。彼らは養蚕、機織り、金属加工、土木技術のほか、漢字や儒教、仏教といった学問や宗教も伝え、古代日本の国家形成に大きな影響を与えました。                                                                                        |
| 問9  | 答え 2<br>海上交通の要所に位置する豪族と連携し、物流や情報のルートを確保しようとした                         | ヤマト王権が全国的な影響力を強めるためには、朝鮮半島や中国大陸との外交、あるいは国内の物資輸送に欠かせない海上交通路を掌握することが不可欠でした。山口県のように瀬戸内海沿岸の重要な地点を治める豪族に対し、権威の象徴である銅鏡を与えることで味方につけ、安定した航路の確保と地方への影響力行使を両立させていたと考えられます。なお、卑弥呼の時代は3世紀であり、この問題が扱う4～5世紀とは時代が異なります。 |
| 問10 | 答え 2<br>ヤマト政権の政治的な支配力が、関東地方から九州地方まで及んでいた。                             | 遠く離れた関東（埼玉県）と九州（熊本県）の両地域から、同一の大王の名を刻んだ刀剣が見つかったことは、当時のヤマト政権が広範囲の豪族を服属させ、統治下に置いていたことを示す重要な歴史的証拠となっています。単なる交易の証拠ではなく、地方の豪族が大王に仕えていたという政治的な背景を裏付けています。                                                       |
| 問11 | 答え 1<br>密閉された穴窯などを用いて高温で焼かれ、硬く灰色をしている。                                | 須恵器は朝鮮半島の技術に基づき、山の斜面などを利用した穴窯の中で、空気を制限しながら高温で焼き上げられます。この過程で化学反応（還元炎焼成）が起きるため、土器の色が灰色になります。これに対し、同時に使われていた土師器は、弥生土器の流れを汲む伝統的な野焼きの手法で作られていました。                                                             |
| 問12 | 答え 3<br>埴輪                                                            | 古墳の周囲や墳丘の上に立て並べられた焼き物を埴輪と呼びます。縄文時代に魔除けや豊かな収穫を祈って作られた「土偶」と混同されやすいですが、埴輪は古墳時代特有のものです。初期は円筒形が中心でしたが、次第に家、盾、人物、動物などの形をしたものが作られるようになりました。                                                                     |
| 問13 | 答え 3<br>前方後円墳                                                         | 3世紀後半から6世紀頃にかけて造られた、日本を代表する古墳の形式です。近畿地方で発生し、一方が方形（四角）、もう一方が円形を呈していることからその名がつけました。当時の首長の権力の大きさを示す象徴的な建造物です。                                                                                               |
| 問14 | 答え 4<br>埴輪は古墳時代に古墳の表面や周囲に並べられたが、土偶は縄文時代に祈りや魔よけのために作られた。               | 埴輪は古墳時代に造られた古墳に並べられた土製品ですが、土偶は縄文時代に魔よけや豊かな収穫などを祈るために作られたものです。このように、作られた時代や使用目的が異なります。                                                                                                                    |